



## ■飛騨版画の祖·武田由平 1892 生~1989 没

武田由平(1892 年、冬頭町生まれ)は、1916 年から 1929 年まで 13 年間、馬場小学校(東小学校)で先生をしていた。学校に初めて版画を取り入れた先生。

彫刻刀は一般に売っていなかったので、作ったという。

色彩版画が主で、面(めん)によって深い世界を表わしている。

## ■守洞春 1909 生~1985 没

1909年に高山市馬場(ばば)町で生まれた。

守は 1916 年頃、小学校で武田由平の教えを受けて、秘(ひそ)かに画家を目指した。1924 年 15 歳の時に、名古屋市の 呉服商に入店し、奉公のかたわら、皆が寝たころの深夜に版画の勉強をした。1934 年、25 歳の時に高山に戻って呉服商と 書道塾を営み、1941 年、32 歳の時から版画を専門とした。

1955~1965 年代、各学校で版画が盛んとなって、高桑(たかくわ)了(りょう)英(えい)、沖野(おきの)清(きよし)、袖垣治彦(そでがきはるひこ)らの先生が教えた。これらの先生たちは武田由平、守洞春に指導を受けている。

守の主流は色彩版画。題材は飛騨の風土や京都の名所が多い。

流れるような線と、遠近法を取り入れて動くような空間を表わした。

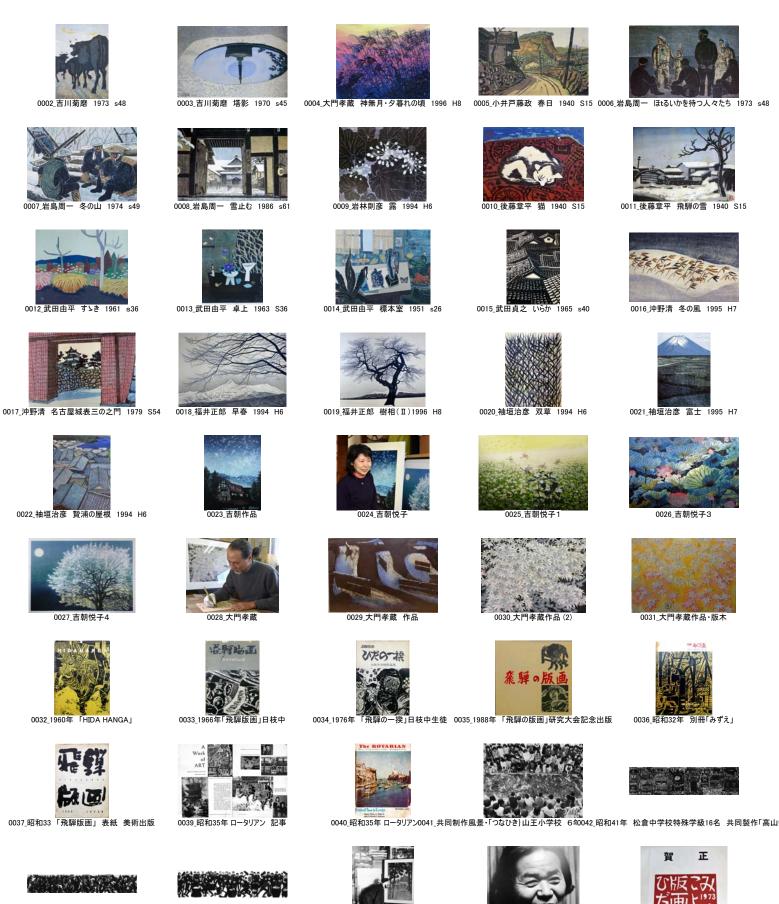
## ■飛騨版画

良い指導者(しどうしゃ)がいた。

飛騨の人たちは、木を彫り、細工することになじんでゆける。

飛騨(ひだの)匠(たくみ)を皆が意識している。

冬は長く黒と白の世界が広がる。白黒の版画と同じ風景。

























0106\_7回 準大賞

t